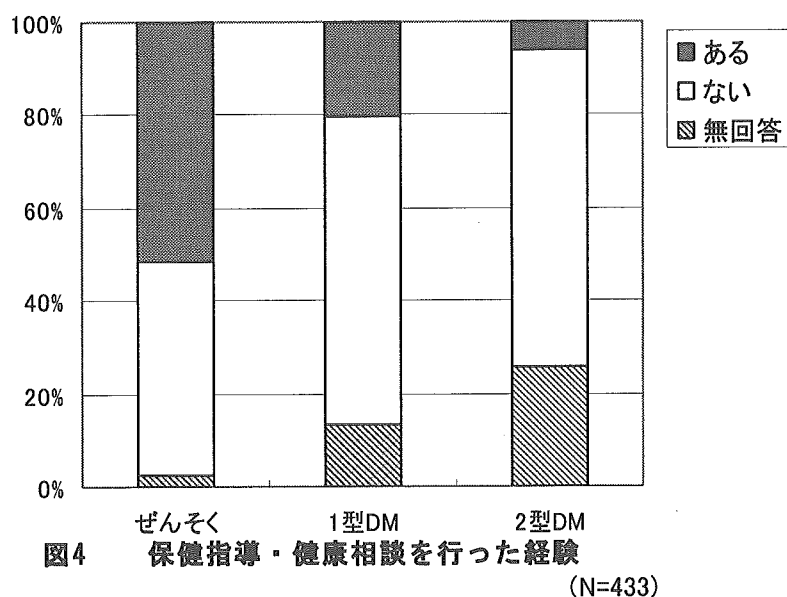


1型糖尿病では282件の記載があり、「症状コントロールや低血糖への対応」151件(53.3%)が半数を占め、「症状や管理の把握」44件(15.6%)、「周囲の理解や情報の共有」43件(15.2%)などであった。2型糖尿病では72件の記載があり、「食事に関すること」13件(18%)、「予防や早期発見の指導」12件(16.6%)、「自己管理への配慮」11件(15.2%)、「運動に関すること」10件(13.8%)などであった。

5) 各疾患に関する保健指導・健康教育の経験については、図4のようである。気管支喘息は198名、1型糖尿病は75名、2型糖尿病は23名の養護教諭が「ある」と答えていた。気管支喘息では、発作の予防やコントロールについて多く行われており、子どもや家族、個人や集団というさまざま形で行われていた。また校医からの講和やパンフレットの配布なども行われていた。糖尿病では、症状への対応に関する指導が多かった。



2. ガイドブック配布後の調査結果

1) 背景：東京都内小中学校2229校の養護教諭に、ガイドブック配布8ヵ月後に質問紙調査を依頼した結果、392名の養護教諭より回答があった(回収率17.5%)。回答のあった養護教諭の背景は、国公立校338名、私立校41名、不明13名であり、小学校246名、中学校133名、小中一貫校1名、不明11名であった。以下疾患ごとに述べる。

2) 気管支喘息について

①ガイドブックの活用状況

「活用する機会があった」74名(18.8%)、「活用する機会はなかった」288名(73.4%)、無回答30名(7.8%)であった。「活用する機会があった」と答えた74名の活用機会については、78件の記載があり表4のようである。3割近くの養護教諭が、発作時に活用していた。また、活用方法は74名中63名から回答があり、表5のように内容を参考にして、子

どもたちに対応していた。

(83.0%)、「役立ちそうにない」0名、「わか

今後の活用性については、392名中136名
が回答しており、「役立つと思う」113名

らない」23名(17%)であった。

表4 気管支喘息のガイドブックの活用機会 N=708 (%)

発作時	22	28.2%
児童に見せる、学ばせる	13	16.7%
知識の習得	12	15.4%
教員に見せる、知識の共有	8	10.3%
宿泊行事のとき	8	10.3%
掲示物として	6	7.7%
保護者との話し合いの場	5	6.4%
その他 届いたとき 必要に応じて	3	3.8%
	1	1.3%

表5 気管支喘息のガイドブックの活用方法 N=63 (%)

子どもと一緒に見への指導	15 (23.8%)	他の教員にみせる、教える	8 (12.7%)
内容を参考にしての対応	19 (30.2%)	教材として	3 (4.8%)
自己の学習	9 (14.3%)	マニュアル作成時に	1 (1.6%)
掲示、保管	8 (12.7%)		

②ガイドブックに関する意見は、339名
(86.5%)の回答があった。その内容は表6
のようであり、ほとんどが肯定的意見であ
った。

また、ガイドブックのイラストは内容の理解
に「とても役立つ」230名(68.7%)、「ど
ちらかといえば役立つ」105名(31.3%)で、「役
立たない」と回答した人はいなかった。

表6 気管支喘息ガイドブックに関する意見

N=339~336

	内容	表現	目次の順序	サイズ
適切	256名(75.5%)	247名(73.1%)	243名(72.3%)	240名(71.0%)
どちらかといえば適切	81名(23.9%)	90名(26.6%)	90名(26.8%)	77名(22.8%)
やや不適切	2名(0.6%)	1名(0.3%)	3名(0.9%)	20名(5.9%)
不適切	0名(0.0%)	0名(0.0%)	0名(0.0%)	1名(0.3%)

③ガイドブックのなかでよいと思われた内
容については、複数回答で表7のようであ

り、「アクションプログラム」「学校で注意
すること」が上位になっている。

④今回ガイドブックと同時に、掲示用アクションプログラムのポスターを作成し、配布した。気管支喘息のポスターの掲示については、362名(92.3%)からの回答があった。「貼らなかった」137名(37.8%)、「保健室内」152名(42.0%)、「廊下」66名(18.2%)、「職員室」4名(1.1%)などで

あった。その他のコメントとして、「しまっておいて必要な時に活用する予定」「見せたが貼ってはいない」「保健室前廊下」などがあつた。

またポスターの形式については表8のような結果であつたが、肯定的な意見が多かつた。

表7 気管支喘息ガイドブックの内容でよかつたもの N=339名(複数回答)

1. もし発作が起きたら(アクションプログラム)	270名(79.6%)
2. 喘息の症状と治療	149名(44.0%)
3. 運動誘発喘息の対応	194名(57.2%)
4. 食物依存性運動誘発アナフィラキシーの対応	189名(55.8%)
5. 学校で注意すること	239名(70.5%)
6. 宿泊の手引き	187名(55.2%)
7. Q&A	119名(35.1%)
8. ご相談ください	94名(27.7%)
9. お知らせください	87名(25.7%)

表8 ポスターの形式への意見

	サイズ(N=330)	色づかい(N=320)
適切	206名(62.4%)	218名(68.1%)
どちらかといえば適切	89名(27.0%)	93名(29.1%)
やや不適切	31名(9.4%)	8名(2.5%)
不適切	4名(1.2%)	1名(0.3%)

⑤気管支喘息ガイドブックに関する感想や意見は、151名(38.5%)から得られた。

表9のように、ガイドブックとポスターを含めた全体的な意見が記載されていた。

3) 1型糖尿病

①ガイドブックの活用状況

「活用する機会があつた」29名(7.3%)、「活用する機会はなかつた」346名(88.2%)、無回答17名(4.5%)であつた。「活用する機会

があつた」と答えた29名の活用機会については、23件の記載があり表10のようである。

また、活用方法については、19名から回答があり、その結果は表11のようである。

表 9 気管支喘息ガイドブックに関する感想・意見 N=187 (%)

全体	わかりやすい	18	85	45.5%
	わかりにくい、内容不十分	4		
	役立った、役立っている	16		
	今後利用できそう	18		
	大きさ、レイアウトについての意見	13		
	担任用、職員室用、配布用にほしい	9		
	使用してない	7		
ガイドブック	わかりやすい	10	49	26.2%
	わかりにくい、内容不十分	6		
	役立った、役立っている	17		
	今後利用できそう	7		
	大きさレイアウトについての意見	7		
	使用していない	2		
ポスター	わかりやすい	7	45	24.1%
	わかりにくい、内容不十分	2		
	役立った、役立っている	13		
	大きさ、レイアウトについての意見	14		
	使用していない	9		
その他	内服に関しては保護者や本人の責任でやってほしい	2	8	4.3%
	他の最新の治療、専門的情報について知りたい	3		
	現在困っている 保護者の受容がないこと	2		
	対応	1		

表 10 1型糖尿病ガイドブックの活用機会 N=23 (%)

患者の児童への対応、指導	7	30.4%
教員に見せる、知識の共有	7	30.4%
知識の習得	5	21.7%
児童に見せる、学ばせる	3	13.0%
届いたとき	1	4.3%

気管支喘息と異なり、自己学習による知識の習得などで活用されていた。

今後の活用性については、98名より回答を得、「役立つと思う」76名(77.5%)、「役

立ちそうもない」2名(2%)、「わからない」20名(20.5%)であった。

②ガイドブックに関する意見は、335名(85.5%)の回答があり、その内容は表12

のようであり、ほとんど肯定的意見であった。また、1型糖尿病のイラストは内容の理解に、「とても役立つ」212名(64.6%)、

「どちらかといえば役立つ」114名(34.8%)、「ほとんど役立たない」2名(0.6%)という回答であった。

表 11 1型糖尿病ガイドブックの活用方法 N=19 (%)

自己の学習	5	26.3%
掲示、保管	5	26.3%
他の教員にみせる、教える	2	10.5%
教材として、他児への説明	3	15.8%
保護者との連絡	2	10.5%
回覧	1	5.3%
宿泊行事	1	5.3%

表 12 1型糖尿病ガイドブックに関する意見

N=337~335

	内容	表現	目次の順序	サイズ
適切	242名(72.2%)	239名(71.1%)	228名(68.1%)	241名(71.5%)
どちらかといえば適切	92名(27.5%)	94名(28.0%)	101名(30.1%)	85名(25.2%)
やや不適切	1名(0.3%)	3名(0.9%)	6名(1.8%)	8名(2.4%)
不適切	0名(0.0%)	0名(0.0%)	0名(0.0%)	3名(0.9%)

表 13 1型糖尿病ガイドブックの内容でよかったもの

N=331名(複数回答)

低血糖の症状と対応方法	253名(76.4%)
普段気をつけなければならないことは？	192名(58.0%)
インスリン療法ってなんですか？	161名(48.6%)
学校で具合が悪くなったときは？	252名(76.1%)
学校の友達に知ってほしいこと	202名(61.0%)
学校生活の中で	236名(71.3%)
Q&A	135名(40.8%)
食べ物のゆくえとブドウ糖	120名(36.3%)
1型糖尿病とは	156名(47.1%)
相談機関	136名(41.1%)

③ガイドブックでよかったと思われる内容 については、表13のようであった。5項目

で半数以上の方がよかったと答えている。
④気管支喘息と同じように、「低血糖症状と対応方法」のポスターを作成し配布した。ポスターの掲示については、347名から回答があった。その結果、「貼らなかった」249名(71.8%)、「保健室内」65名(18.7%)、「廊下」29名(8.4%)、「職員室」2名(0.6%)、

その他4名(1.2%)であった。また、その他のコメントとして、「係が判断して貼るからわからない。保健室には来ていない--1名」「該当児童がいないので掲示していない--2名」というものがあった。ポスターの形式については、表14のような結果であった。

表14 「低血糖症状と対応方法」ポスターの形式への意見 N=300 (%)

	サイズ	色づかい
適切	184名(61.3%)	187名(62.5%)
どちらかといえば適切	90名(30.0%)	101名(33.8%)
やや不適切	22名(7.3%)	9名(3.0%)
不適切	4名(1.3%)	2名(0.7%)

⑤1型糖尿病ガイドブックに関する感想や意見は、120名(30.6%)からあり、表15のようであった。ポスターに関する意見は、表16のようであった。「わかりやすい」「利用できる

そう」という意見がある一方で、「患者がいないために使用していない」という意見もあった。

表15 1型糖尿病ガイドブックに関する感想・意見 N=151 (%)

わかりやすい	42	27.8%
今後利用できそう	38	25.2%
患児がいないため使用してない 参考によんだ	33	21.9%
大きさ、レイアウトについての意見	12	7.9%
わかりにくい、内容不十分・不適切	8	5.3%
役立った、役立っている	7	4.6%
以前からあればよかった	3	2.0%
教員にみてもらいたい	2	1.3%
薬品保管の問題点	2	1.3%
HPでダウンロードする形がよいのでは	1	0.7%
他の疾患のものがほしい	1	0.7%
個人向けのガイドブックがほしい	1	0.7%
必要ないと思う	1	0.7%

表 16 「低血糖症状と対応方法」ポスターに関する感想や意見 N=82 (%)

大きさ、レイアウトについての意見	22	26.8%
わかりやすい	11	13.4%
患児がいないため使用してない	12	14.6%
今後利用できそう	11	13.4%
掲示した、役立った	12	14.6%
患者への配慮のため貼っていない	6	7.3%
一部の患者なので貼りづらい・必要ない	5	6.1%
以前からあればよかった	1	1.2%
わかりにくい、内容不十分・不適切	1	1.2%
掲示する場所がない	1	1.2%

4) 2型糖尿病について

①ガイドブック活用状況

「活用する機会があった」19名(4.8%)、「活用する機会はなかった」344名(88.0%)、無回答28名(7.2%)であった。「活用する機会があった」と答えた19名中、12名の活用機会とは、児童への指導や授業時に活用3名、糖尿病生徒への対応時3名などがあつた。具体的には教材としての利用5名、養護教諭の自己学習3名などであつた。

今後の活用性については、363名中93名回答し、「役立つと思う」73名(78.5%)、「役

立ちそうもない」1名(1.1%)、「わからない」19名(20.4%)であつた。

②ガイドブックに関する意見は、表17のようであつた。前述のガイドブック同様、肯定的意見が多い。また、ガイドブックのイラストは内容の理解に、「とても役立つ」191名(62.5%)、「どちらかといえば役立つ」114名(37.1%)、「ほとんど役立たない」1名(0.3%)であつた。

表 17 2型糖尿病ガイドブックに関する意見

N=324~328

	内容	表現	目次の順序	サイズ
適切	219名(67.6%)	225名(69.0%)	209名(64.5%)	227名(69.2%)
どちらかといえば適切	104名(32.1%)	98名(30.1%)	105名(32.4%)	92名(28.0%)
やや不適切	1名(0.3%)	3名(0.9%)	10名(3.1%)	6名(1.8%)
不適切	0名(0%)	0名(0%)	0名(0.0%)	3名(0.9%)

③ガイドブックのなかでよいと思われた内容は、表18のようであつた。学校生活についての回答が他の項目より高くなっている。

④2型糖尿病ガイドブックに関する感想や意

見は、101名の記載があり、表19のように分類できた。「わかりやすい」「今後利用できそう」に混じって、「不適切」「利用していない」という意見もあつた。

表 18 2 型糖尿病ガイドブックの内容でよかったもの N=318(複数回答)

1. 肥満の原因とは	152 名 (47.8%)
2. 早期発見のために	175 名 (55.0%)
3. 学校でできる心のケア	171 名 (53.8%)
4. 学校生活の中で	223 名 (70.1%)
5. 食べ物のゆくえとブドウ糖	129 名 (40.6%)
6. 2 型糖尿病とは	183 名 (57.5%)
7. 薬物治療中の低血糖の症状と対応方法	186 名 (58.5%)
8. Q & A	123 名 (38.7%)
9. 相談機関	113 名 (35.5%)

表 19 2 型糖尿病ガイドブックへの意見や感想 N=119 (%)

今後利用できそう	30	25.2%
わかりやすい	24	20.2%
患児がいないため使用してない 参考によんだ	14	11.8%
わかりにくい、内容不十分・不適切	16	13.4%
活用している、役立った、掲示した	10	8.4%
大きさ、レイアウトについての意見	9	7.6%
児や保護者への配慮が必要	6	5.0%
活用していない、読んでいない	4	3.4%
HP でダウンロードする形がよいのでは	1	0.8%
他の疾患のものがほしい	1	0.8%
個人向けのガイドブックがほしい	1	0.8%
受診のタイミングに困っている	1	0.8%
保護者にも伝えてほしい	1	0.8%
管理指導表について	1	0.8%

4) 慢性疾患の子どもの学校生活支援のために必要と思われること

慢性疾患を持つ子どもたちが学校生活を心地よく営んでいく上で、養護教諭としてどのような支援が必要と考えているか、自由記述で調査した結果、296 名 656 件の回

答があった(表 20)。最も多い意見は、連携や協力であり 6 割近い内容であり、特に保護者・医療機関との連携についてが多かった。また、疾患や重症度の知識の習得も必要としていた。

表 20 慢性疾患の子どもの学校生活支援のために必要なこと N=296 名

連携や協力	保護者との	159	387	59.0%
	医療機関との	134		
	学校全体との	87		
	他の機関との	7		
知識の習得	教員による①疾患や重症度について	96	170	25.9%
	②変化があった時の対応	41		
	保護者による	12		
	児自身による	21		
児への対応	児とのコミュニケーション	26	71	10.8%
	児のこころのケア	12		
	指導や援助	12		
	他の児への関わり	21		
環境整備	設備の改善	18	28	4.3%
	人的配置	10		
		総数	656	100.0%

D 考察

本研究では、3種類のガイドブック(気管支喘息、1型糖尿病、2型糖尿病)の配布時と、その後に小中学校の養護教諭に質問紙調査を行い、ガイドブックの活用状況に関する評価を行ったが、配布時、配布後とも回収率が低く、依頼の時期や郵送方法に課題が残った。

配布時の調査では、3疾患とも養護教諭が知っていたが、知る過程については、気管支喘息は「疾患を持つ子どもや親から」という回答が高く、また養護教諭が行う気管支喘息児への健康管理の記載量からも、気管支喘息の子どもたちには直接接する機会が多いことが伺える。

学校生活上で抱えている困難については、気管支喘息が4割近くで、糖尿病は少なく、子どもたちに接している割合が反映されている結果であろう。困難な内容は、気管支喘息、糖尿病とも、これまでの調査結果と同じよう

な内容であった³⁾。記載されている内容はより具体的であり、発作時や症状コントロールに伴う判断、医療行為の困難さ、子ども自身の病気の受け入れや落ち込み、人間関係の難しさなど、多様であった。また、養護教諭は、疾患をもつ子どもたちに直接的に多くの対応を行っており、保健指導へも積極的に取り組んでいる様子が伺えた。

ガイドブック配布後の調査では、気管支喘息ガイドブックが、糖尿病ガイドブックより多く利用されていた。両ガイドブックも、疾患をもつ子ども自身に利用するのみならず、クラスメートや教職員への活用範囲が広がっていたことは、内容のわかりやすさ、イラストの親しみやすさなどが影響していると考えられる。

また、ガイドブック、ポスターは、内容・形式ともに肯定的意見が多く、実際の活用者からは今後の活用性も示唆されていた。しか

し、その内容の疾病をもつ子どもが身近にいないと、活用度は明らかに下がっており、配布方法、活用方法には更なる工夫が必要である。

今回のガイドブックは、従来の疾患理解というより、症状が出たときの対応の仕方、学校生活で問題になりやすい事柄に事前に対応できる、などを目的として作成した。その点では、「アクションプログラム（発作時や症状が出たときの対応）」と「学校で注意すること」の内容に高い回答を得たことは、一定の目的を果たすことが出来る内容であったと評価できる。しかしポスターの掲示率は、気管支喘息は62.6%であったが、糖尿病28.2%と低い。掲示しない理由は質問していないが、廊下など子どもたちの目に触れるところへの掲示には、患児が少ないことにより配慮が必要であることの記載などを考えると、ポスターの取り扱いについても検討の必要がある。

慢性疾患の子どもたちへの対応は、子どもを取り巻く教職員や医療機関、家庭との連携が重要であることはすでに言われているが⁴⁾、今回の調査でも連携に関する問題の記載が最も多く、直接的には子ども自身や子どもの症状に働きかけていても、それだけでは解決できない課題が多いものと推測された。今後はガイドブックについても、家族や医療機関と学校の橋渡しの役割をもつことができるように工夫していくことが必要と考える。

E 結論

学校生活に関するガイドブック(気管支喘息、1型糖尿病、2型糖尿病)を養護教諭に配布し、その前後で質問紙調査を行った結果、以下のことが明らかになった。

1. 養護教諭は、今回配布したガイドブックの3疾患についてはよく知っている疾患であった。

2. 3疾患について、気管支喘息への困難な割合が一番多く37%ほどであったが、内容は症状への対応、日常生活上の問題など多様であった。
3. 子どもたちの問題にはさまざまな対応を行っていたが、子ども自身や子どもの病状などへの直接的働きかけが多かった。
4. 3つの疾患に関する健康相談や保健指導の割合は気管支喘息が多く、問題や対応の記載量からも、気管支喘息はより身近な疾患であると考えられた。
5. 疾患をもつ児童・生徒が在籍していると、ガイドブックの利用は高くなり、ポスターについても同様の傾向であった。
6. ガイドブックの内容や形式については、肯定的意見が多かった。
7. ガイドブックが目的とした、アクションプログラム（発作時や症状が出たときの対応）」と「学校で注意すること」の内容には高い評価を得ることができた。
8. ガイドブック、ポスターが、より身近なものとなるための活用方法の検討がさらに必要である。
9. 慢性疾患の子どもたちの学校生活支援のためには、さらなる家族、医療機関、学校関係者との連携・協力が必要であった。

文献

- 1) 伊藤龍子、及川郁子、他：小児慢性特定疾患患者の療養環境の現状と今後の課題—小学校・中学校・高等学校の養護教諭の面接調査—、厚生労働科学研究難治疾患克服研究事業「小児慢性特定疾患患者の療養環境向上に関する研究」平成15年度分担報告書、2004、31-44.
- 2) 伊藤龍子、他：学校生活のための気管支喘息と糖尿病ガイドブックの作成—保健室常携用アクションプログラム—、厚生勞

働科学研究子ども家庭総合研究事業「小児慢性特定疾患患者の療養環境向上に関する研究」平成 16 年度分担研究報告書、2004、25-30.

- 3) 堂前有香、中村伸枝：小学校、中学校における慢性疾患患児の健康上の現状と課題—養護教諭を対象とした質問紙調査から—、小児保健研究、63 (6)、2004、697-700.
- 4) 吉川一枝、他：慢性疾患患児の学校生活支援と養護教諭のかかわりに関する研究—病院・家庭・学校相互間の連携の視点から、リハビリテーション連携科学、1 (1)、2000、163-173.

気管支喘息 について、お答えください

I. 「ぜんそく」という病気について、どの程度ご存知ですか。

もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

1. ほとんど知らない 2. あまり知らない 3. 少し知っている 4. よく知っている

II. 「ぜんそく」という病気について、どのようにお知りになりましたか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | | |
|----------|-----------------|----------------|
| 1. 書籍・雑誌 | 2. インターネット | 3. 勉強会や研修会 |
| 4. 学校医 | 5. ぜんそくの子どもまたは親 | 6. 養護教諭同士の情報交換 |
| 8. その他 (| |) |

III. 「ぜんそく」の子どもの学校生活に関して、日頃、難しいと思われる点がありますか。

もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

1. ほとんどない 2. あまりない 3. 少しある 4. たくさんある

↳ 3と4を選んだ方は、難しいと思われる内容を具体的に教えてください。

--

IV. 「ぜんそく」の子どもの健康管理や生活管理として、普段学校で行っていることを教えてください。

--



「ぜんそく」のガイドブックについて、お答えください。

I. 「ぜんそく」のガイドブックを、活用していただきましたか。どちらかひとつに○をつけてください。

1. 活用する機会があった 2. 活用する機会はなかった

↳ 「2. 活用する機会はなかった」を選んだ方は、Ⅲへお進みください。

II. Iで、「1. 活用する機会があった」を選んだ方だけに伺います。

① どのような機会に活用しましたか。

[]

② どのように活用したかを教えてください。

[]

③ ガイドブックは、今後も学校で役立ちそうですか。もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

- 役立つと思う 役立ちそうもない わからない

III. ガイドブックに関して伺います。それぞれもっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

内容は	適切	どちらかといえば適切	やや不適切	不適切
表現は	適切	どちらかといえば適切	やや不適切	不適切
目次の順序は	適切	どちらかといえば適切	やや不適切	不適切
サイズは	適切	どちらかといえば適切	やや不適切	不適切
イラストは内容の理解に	とても役立つ	どちらかといえば役立つ	ほとんど役立たない	まったく役立たない

「1型糖尿病」 のガイドブックについて、お答えください。

I. 「1型糖尿病」のガイドブックを、活用していただきましたか。どちらかひとつに○をつけてください。

1. 活用する機会があった 2. 活用する機会はなかった

↳ 「2. 活用する機会はなかった」を選んだ方は、IIIへお進みください。

II. Iで、「1. 活用する機会があった」を選んだ方だけに伺います。

① どのような機会に活用しましたか。

()

② どのように活用したかを教えてください。

()

③ ガイドブックは、今後も学校で役立ちそうですか。もっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

- 役立つと思う 役立ちそうもない わからない

III. ガイドブックに関して伺います。それぞれもっともあてはまるもの1つに○をつけてください。

内容は	適切	どちらかといえば適切	やや不適切	不適切
表現は	適切	どちらかといえば適切	やや不適切	不適切
目次の順序は	適切	どちらかといえば適切	やや不適切	不適切
サイズは	適切	どちらかといえば適切	やや不適切	不適切
イラストは内容の理解に	とても役立つ	どちらかといえば役立つ	ほとんど役立つ	まったく役立つ
	ほとんど役立つ	まったく役立つ	ほとんど役立つ	まったく役立つ